

愛・地球博 理念継承エリア検討委員会
第 5 回 資料

1	基本構想の確認	-----	1
2	基本計画の方針案	-----	2
3	テーマゾーンの計画案		
3 - 1	地球市民交流センター	-----	5
3 - 2	フレンドシップ広場	-----	8
4	テーマゾーンの展示・情報発信機能の内容	-----	9
5	テーマゾーンを計画する上での市民団体への意向調査	-----	10
6	記念ゾーンの計画案	-----	11

1 基本構想の確認

アイデアのひろばにおける基本的な考え方は、以下のとおりである。

1. アイデアのひろば展開の方針

方針

交流

- ・国際、地域、県民による交流を促進する
- ・多様な体験交流の場を通じて子どもたちの社会性を養う

環境

- ・生命の大切さを学ぶ環境学習の場とする
- ・持続可能な地域形成のシンボルとなる整備・管理運営を行う

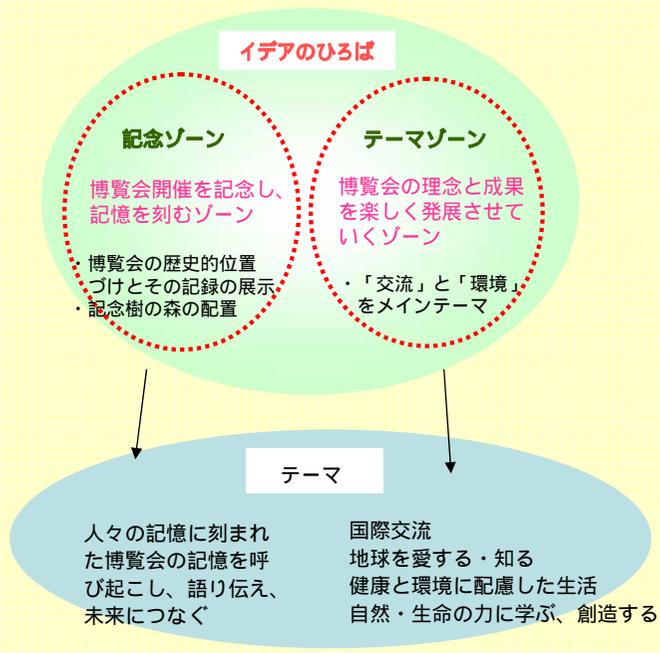
博覧会開催を記念

- ・博覧会の感動・記憶を呼び起こす市民同士の交流や展示、体験を行う
- ・博覧会を世界の人々と共有した歴史を残すと共に活かし、未来につなげる

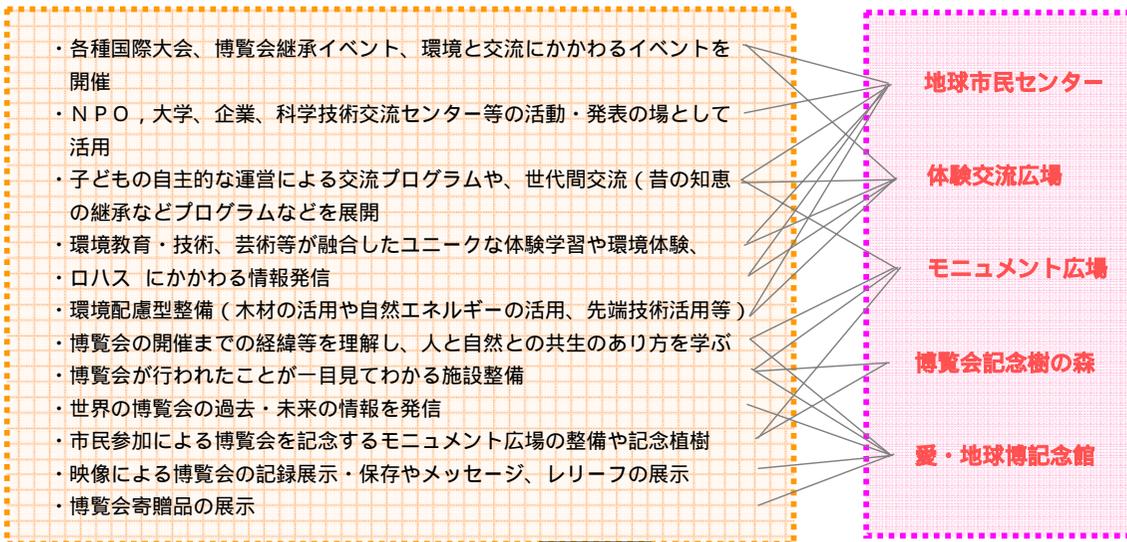
市民参加

- ・地域の人々(県民、企業、大学、行政などを含む)と共に創り、成長する公園づくりを行う

ゾーン配置とテーマ



2. 展開内容と導入エリア



2 基本計画の方針案

1. テマゾーンの空間整備の考え方

テマゾーンの空間整備の考え方は以下のとおりとする。

公園全体の緑地ネットワーク形成に配慮した森林の再生

- ・本公園は、丘陵地形を生かして整備されており、公園全体が既存樹林地の緑で包まれている。そうした中、テマゾーン敷地は博覧会施設撤去後、裸地となっており、園内の緑地の連続性が分断された状況にある。博覧会後の公園整備における緑の保全と育成は、公園づくりの基盤となる考え方であり、テマゾーン整備においても、展開機能との整合を図りながら公園全体の緑地ネットワーク形成に配慮して緑化を積極的に行う。

市民参加を取り込んだ整備

- ・テマゾーンは、博覧会の理念と成果を発展させていく場である。このため、ここでの空間整備は博覧会の成果である「市民参加」の継承を柱の1つとして捉え、空間整備や施設運営に反映させていく。

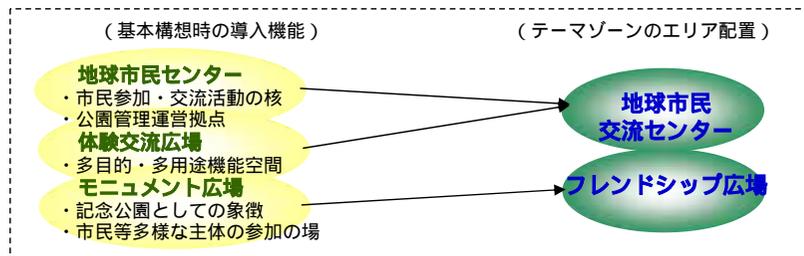
博覧会の理念と成果を継承したシンボル空間

- ・拠点施設は、周辺の自然環境と調和し本公園の緩やかな丘陵地形を活かしたダイナミックなデザインとする。
- ・自然のしくみを活用した環境技術を集積して、環境配慮型のエネルギーシステムを取り入れる。
- ・「環境と交流」のテーマにふさわしい森に囲まれた、交流の拠点とする。

2. エリア配置

「地球市民センター」と「体験交流広場」をまとめて「地球市民交流センター（仮称）」とする

- ・市民参加・交流活動の場として位置づけた地球市民センター・体験交流広場は、来園者が集まりやすい位置に配置し、双方の連携を図った利用・運営を行っていくことが効果的である。このため、公園の顔となる北エントランスに面したテマゾーン北側部に、地球市民センター・体験交流広場を一体的に取り込んだ拠点施設（「地球市民交流センター（仮称）」）として配置する。「モニュメント広場」を「フレンドシップ広場（仮称）」と改称する
- ・モニュメント広場は、博覧会の象徴的な交流事業であった一市町村一国フレンドシップ事業をデザインテーマとして、名称を「フレンドシップ広場（仮称）」に変更する。
- ・「フレンドシップ広場」では、デザイナー、専門家等によるデザインに基づき、市民参加型による広場づくり、森づくりを行っていくとともに、整備後は市民活動の場として活用する。



公園の基盤的な空間構成とテマゾーンの位置



3. 動線計画

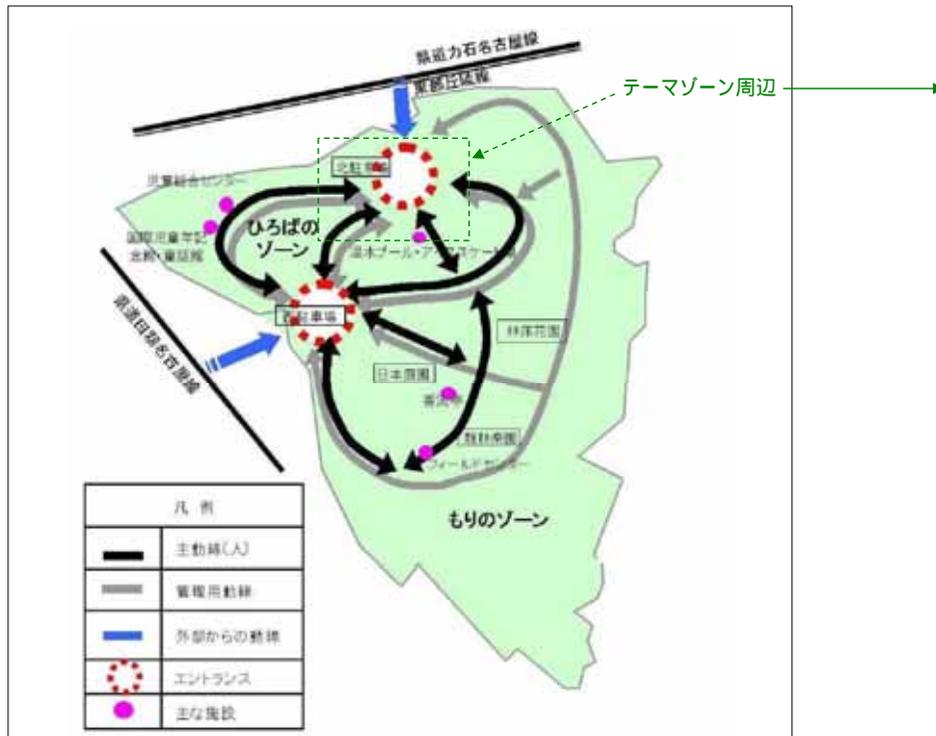
公園の動線計画は、公園施設間の相互連絡をスムーズに行うと共に、施設間内の連絡路を効果的に配置するものであり、エントランスや主要施設の位置、博覧会の園路形態の活用を考慮し設定する。動線構成は、公園全体の骨格的な動線である主動線と、サブ的な動線である副動線に区分し計画する。

公園全体

人の動線

- ・人の動線は、北エントランスと西エントランスの2ヶ所が結節点となり、それぞれの場所から放射状に主要施設への連絡する動線を主動線として設定する。
- ・テーマゾーンは、北エントランス部の結節点に位置し、北エントランスや他のゾーンからの動線が集まる位置にある。

公園全体の動線



テーマゾーン周辺

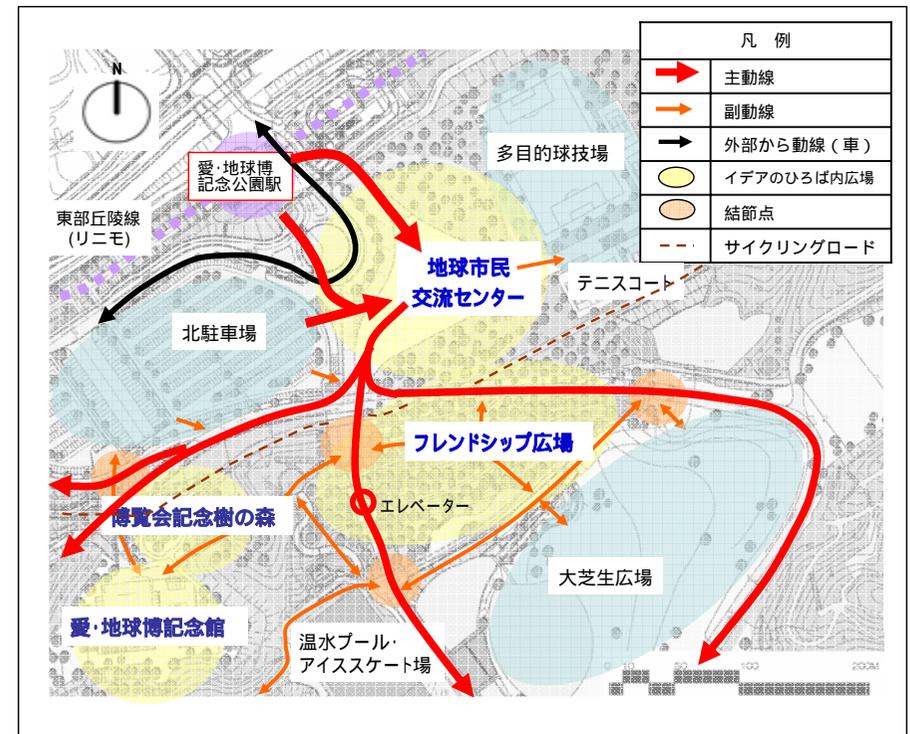
主動線

- ・主動線は、誰もが歩きやすいユニバーサル園路として整備する。
- ・タイプとしては以下の2動線がある。
 - リモノ「愛・地球博記念公園駅」と「北駐車場」から、市民交流拠点である「地球市民交流センター」に誘導する動線
 - 「地球市民交流センター」と園内の他のゾーンを結ぶ動線
- ・「温水プール・アイススケート場」と「地球市民交流センター」を結ぶ動線上に生じる急な高低差の解消には、エレベーターを設置する。

副動線

- ・アイデアのひろば内の「博覧会記念樹の森」と「フレンドシップ広場」間には、樹林地内を經由して連絡する副動線を配置し、利用の連続性に配慮する。

テーマゾーン周辺の動線



4. 植栽計画

空間構成の考え方を踏まえ、テーマゾーンの植栽計画のテーマを以下のように設定し、各エリア毎における植栽計画の考え方を整理する。

博覧会の理念と成果を継承するシンボルとなる森の整備

- ・緑地ネットワーク形成
- ・市民参加型整備
- ・建物や周辺樹林と一体となった森づくり
- ・地域種による緑化
- ・環境負荷軽減型の植栽整備

フレンドシップ広場

- ・周辺の斜面樹林との連続性を確保した落葉高木を主とした森づくり。樹冠が重なり合う程度の明るい森とし、夏季には、南からの風が「フレンドシップ広場」を通り抜け、冷気を中央の広場に運ぶ。
- ・博覧会跡地の緑地回復空間、博覧会の理念を継承していく市民交流空間として、市民参加型による植栽や維持管理を実施。
- ・地域種であるモンゴリナラ等を実生から育成。
クヌギ、コナラ、サトザクラ、ヤマボウシ、モンゴリナラ、ソヨゴ、タブノキ 等

地球市民交流センター

- ・建物屋上部は周辺環境と調和、公園のシンボル性、環境負荷軽減面を考慮した緑化。効率的な屋上緑化システムを建築構造と合わせて検討。
- ・博覧会で賞賛をあげた壁面緑化を建物形態と整合を図り検討。
- ・都市における新しい緑化方式の提案の場。
芝生、ヘデラ等の地被類やセダム類による建物屋根部・壁面部の緑化

地球市民交流センター周辺

- ・周辺樹林との一体性のある落葉高木を中心に下草を組み合わせた植栽。
- ・地域植生種を基本とした緑地回復の場。植栽間隔は、樹冠が重なり合う程度。
クヌギ、コナラ、ケヤキ、アベマキ、エゴノキ、アラカシ
コウライシバ、シャガ、ツブキ、コグマザサ、フックスウ 等
- ・地球市民交流センターの西側は防風機能に配慮。樹種は、地域で防風樹として使用される常緑樹を主体に選定。
シラカシ、アラカシ、ウバメガシ、イヌマキ、ツバキ 等

博覧会記念樹の森

- ・博覧会参加国による植樹セレモニーの記念樹を移植。
- ・愛・地球博記念館に隣接した緑地空間として建物と調和のとれた植栽。
記念樹：ハクモクレン、ソメイヨシノ、トウカエデ、ヤエザクラ
その他：クロマツ、タギョウショウ、ヒトツバタゴ、サルスベリ、リュウノヒゲ、クマザサ 等

エリア別の植栽計画



凡 例	
	植栽整備地
	芝生整備地
	既存樹林地 コナラ、クヌギ、エゴノキ、 ソヨゴ、アベマキ、等



エントランス・駐車場(整備済み)

- ・四季の花と樹形の美しい落葉樹を植栽
- ・駐車場の安全性、維持管理に配慮
・イチヨウ、ソメイヨシノ、ハクモクレン、アメリカフウ、ハナノキ
ユキヤナギ、ツツジ類、コクチナシ、ボックスウッド、カンツバキ

3 テーマゾ - ンの計画案

3-1 地球市民交流センター -

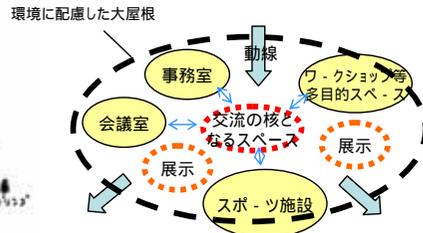
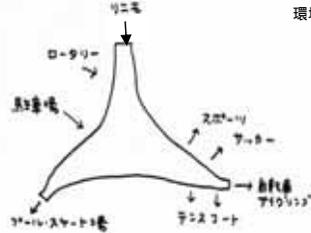
地球市民交流センターは、公園北側のエントランスと園内の各エリアとをつなぐ結節点に位置し、公園利用及び管理運営上の中核的な機能を持つものである。そのため、センター内は交流の核となる空間を中心とした動線・機能配置の検討が重要となる。また、博覧会の理念と成果を継承・発展させるエリアとしての象徴的なデザインが求められる。

このような条件やテーマゾ - ンの機能を踏まえ、地球市民交流センター - 計画案の基本的なコンセプトを設定する。

1.基本コンセプト

環境をつなぐデザイン

- ・外部と内部が緩やかに繋がれた明るく開かれた空間
- ・周辺丘陵地形のアンジュレーションに溶け込む曲線形状
- ・自然の風や熱（気温）などの変化や動きを活用



- ・周囲の要素（機能、植栽、施設、人の動線等）に接しながら、それらを接合

- ・交流の核となるスペースを中心に各種機能を配置

大きくてシンプルでロングライフ

- ・機能にしばられず、多用途な空間構成
- ・周囲の景観や環境、施設と調和するシンプルな形状と構造



花みどり文化センター -



花みどり文化センター -



イブラブエラ公園 (サンパウロ)

市場、様々な分野の交流や教育の場として活用



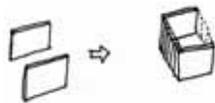
ダイアログ広場をくみこんだラウンジ

- ・市民交流・活動のメインステージとなるラウンジ



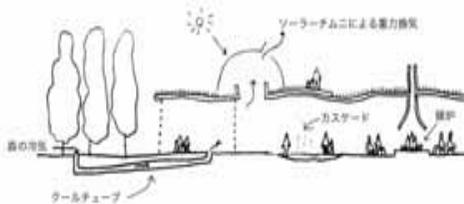
木の内部空間

- ・内装は仕切りを少なく、積極的に木材を使用（スケルトン・インフィル）

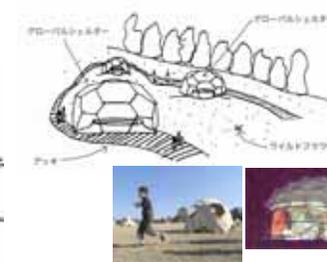


風と森を利用した環境制御としての覆い
博覧会の成果等の展開としてのシステムを検討

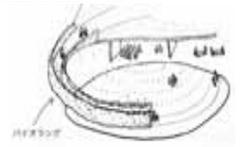
- ・ソーラーチムニーによる重力換気と森の冷気を引き込んだクールチューブ
- ・自然光を取り込む天窗
- ・バイオマスの暖炉空間



- ・透明太陽電池膜のシェルター
- ・グロ - バルル - プ状のデッキと薄層緑化



- ・バイオラングとミストのアプロ - チ



NPOなどの活動の成果を応用した仕上げ材、展示家具等



地球市民交流センター 展開案

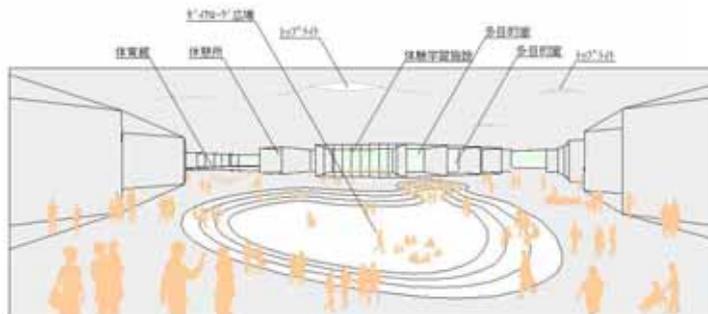


A案

- ・体育館を南東に配置する。
- ・グローバルループの外形を持つダイアログ広場を中央に配置する。
- ・屋上広場からフレンドシップ広場へのアプローチは、緩やかなスロープとする。
- ・テニスコート2面を多目的球技場の東側に配置する。

(長所) 中心にダイアログ広場があり、交流性が高い。
 交流、運動、情報の3つのゾーンが明確である。体育館が独立して使用できる
 全体の形が有機的でありテーマに合わせたシンボル性の高い施設となる。

(短所) 体育館部分が突き出しており、シンプルな形状でない。
 建物の中心が複数ある。

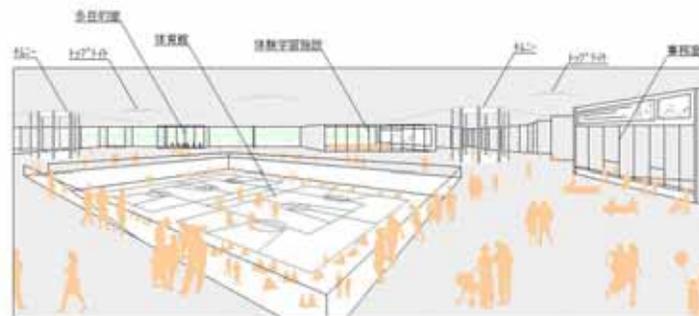


B案

- ・体育館を中央に配置する。
- ・円形ダイアログ広場を体育館の西側に配置する。
- ・屋上広場はり二モ駅とフレンドシップ広場をつなぐ。
- ・屋上広場からフレンドシップ広場へのアプローチは階段とする。

(長所) 全体の形が単純明快である。
 建物の中心がわかりやすい。
 体育館を一体的に利用できる。

(短所) スポーツ施設としての色彩が強まり、センター施設の市民活動を阻害する可能性がある。
 体育館の音のラウンジへの影響がある。



エリアの配置については、フレキシブルに場所を変更可能

地球市民交流センター（A案）

屋根伏せ図

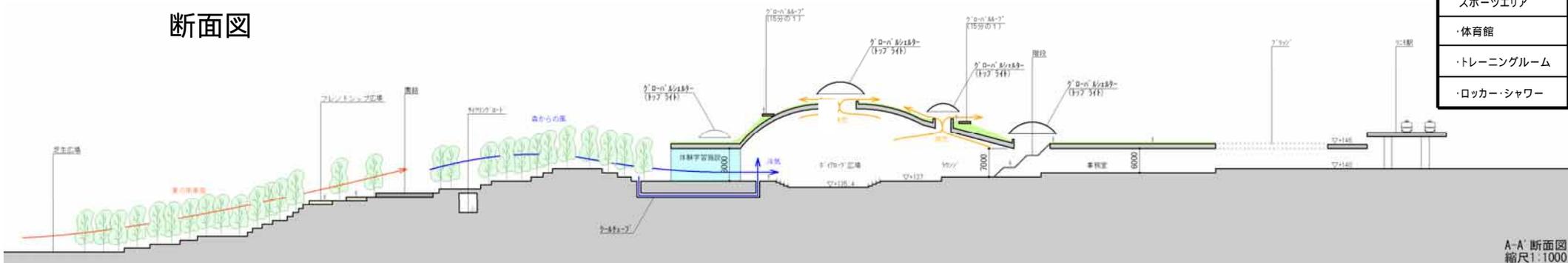
平面図



屋内施設一覧表

管理エリア
交流エリア
・ダイアログ広場
・体験学習施設
・多目的室
スポーツエリア
・体育館
・トレーニングルーム
・ロッカー・シャワー

断面図



A-A' 断面図
縮尺 1:1000

3-2 フレンドシップ広場

1. 「フレンドシップ広場」の位置づけ

・市民参加により、みんなで創り上げる広場は、一市町村一國フレンドシップ事業が博覧会を盛り上げ、草の根交流を推進した象徴的な事業であることから、これをデザインテーマとする。

2. 機能

・記念公園としての象徴機能
・市民等、多様な主体の参加の場としての機能

3. 構成

・現況の斜面を活用した樹林地と広場・園路で構成
樹林地
・記念ゾーンの既存樹林地から東部の既存樹林地へ連続する樹林帯を整備することにより、公園全体の緑のつながりを確保し、大芝生広場を緑で囲む
広場、園路
・樹林地内を楽しみながら散策できる園路や、休憩や屋外ワークショップに利用できる小広場を整備
・小広場は、一市町村一國フレンドシップ事業を象徴する空間として計画趣旨を踏まえたデザイン、環境に配慮した素材を採用
・園路はユニバーサル勾配に配慮し斜面に沿って配置

4. 整備手法

・デザイナー、専門家の参加・指導による芸術性の高いデザインとする
・広場、樹林地とも市民参加で時間をかけて創り上げる

整備計画 展開例

・トビアリー製作イベント（モリコロなど）



・植樹イベント

・フレンドシップ事業を継承する交流イベント
～ピンパッチをモチーフとしたオブジェづくり～



・見通しの良い落葉樹主体の斜面林整備のイメージ



・市民参加型の整備



5. 利用計画

・市民参加型でさまざまなイベント等を、地球市民交流センターや大芝生広場と連携して開催

利用計画 展開例

・近隣の大学やNPOとの連携による交流・環境関連のプログラム
・市民野外アート展覧会
・イルミネーション作品展 等



4 テーマゾーンの展示・情報発信機能の内容

テーマゾーンは「交流」と「環境」をメインテーマに、博覧会の理念と成果を楽しく発展させていくエリアとして位置付けられており、その役割の核になるのが、地球市民交流センターに備えられる展示・情報発信機能となる。またフレンドシップ広場については、地球市民交流センターを核とした展開の中での活動フィールドとして捉えていく。

テーマゾーンでの展示・情報発信機能は、NPOなどの活動・交流の場において果たされるものと併せて、公園管理者が果たす常設の骨格的な展示・情報発信機能を配置する必要がある。

地球市民交流センターを中心とした展示・情報発信機能の展開および体系づくりの方針について整理する。

1. 展示・情報発信機能からみたテーマゾーンの方向性

市民（市民・NPO・企業・各種研究機関）の交流・情報交換の場

- ・持続可能な地球環境に関する市民の意見発表、情報交換の場

市民による地球環境のための活動の場

- ・市民・NPO・企業・各種研究機関による持続可能な地球環境にかかわる展示、ワークショップ等活動の場

公園情報のア・カイブ

- ・公園内やその周辺の様々な資源についての情報の記録、発信
- ・市民・NPO・企業・各種研究機関による活動の記録、発信
- ・博覧会の記録展示や継承事業などについての情報の記録、発信

2. 展示・情報発信機能の体系づくり

展示・情報発信機能を効果的に発揮させるための運営体系を整える必要がある。体系づくりの4つの資源 「ひと」「もの」「情報」「しくみ」で構成する。

「ひと」

- ・NPO等の団体の連携・協力の調整役
- ・気づきを促し、学びに展開するための自然・環境・文化の解説者
- ・子どもから高齢者までへのやさしい問題掛け
- ・答を与えない（オープンエンド形式）解説手法の開発

< 例示 >

展示企画ディレクター、コーディネーター
インタープリターや環境ファシリテーター

「しくみ」

- ・大学・企業との連携による実験展示の場の提供
- ・体験型展示の展開を実践するための連携、プログラム開発等
- ・学校支援施設として貸し出し教材の提供

< 例示 >

企業連携の実験展示場提供
インタープリター連携、アウトリーチ活動
学校教材貸し出し制度

「情報」

- ・本公園に関するデータ収集とデータベース化
- ・インタープリターがいなくてもセルフインテリジェンス機能による情報提供
- ・時間経過の中での公園の情報記録
- ・国内外の環境共生の取組み情報提供

< 例示 >

公園に関するアーカイブの構築と情報提供
科学技術交流センター等研究機関との連携
他の公園や博物館・植物園との情報交流

「もの」

- ・モリコロによる展示のナビゲーション
- ・ハンズオン展示
- ・リアルタイムでの公園内情報提供装置
- ・フィールドで利用可能な情報提供システム
- ・関連商品の販売等

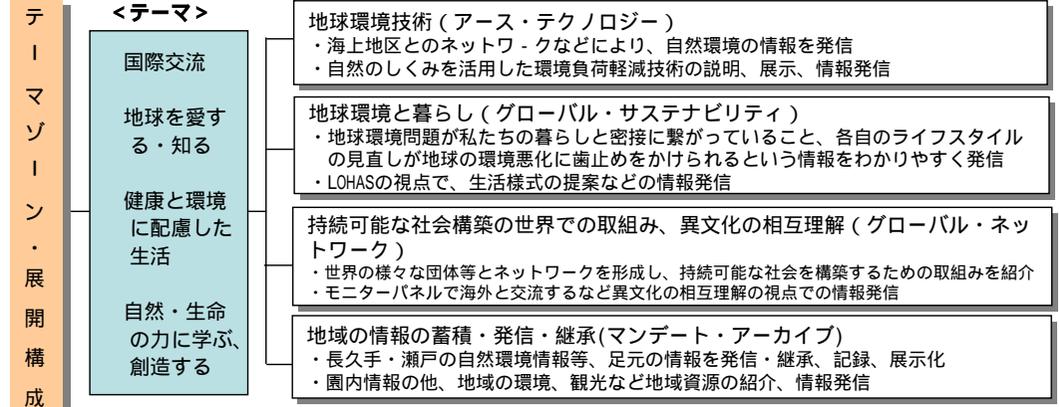
< 例示 >

対話型展示やインタラクティブ展示
アート展示
現地利用可能な地理情報システム
モリコログッズなどの販売

3. 骨格的な展示・情報発信機能の展開の内容としかけ

公園管理者が展開する常設の骨格的な展示・情報発信の構成としては、テーマから導かれる以下の内容を基本とする。

また、展示・情報発信の展開手法として、展示物にアート性を持たせたり、展示や情報の理解を深めるためのプログラム開発などのしかけづくりを行う。



< 展開のしかけ >

アートとしての展示・情報発信
理解の深化を図るプログラム開発 等

展示・情報発信の展開イメージ

モリコロ・キッコロの活用展開イメージ

展示や情報の内容を、誰にでも受け入れやすくするため、本公園の愛称である「モリコロ」を活用



例）
・モリコロ記念館
・モリコロの世界
等

展示空間の名称への活用

展示のナビゲーター

みんなで地球環境についてを考えよう！



展示内容や関連WSへの活用
例）
・モリコロの森体験展示
・モリコロに変身WS等

アート展示イメージ

地球規模の情報を身近に伝える地球儀アート
（作者：インゴ・ギュンダー（ドイツ人アーティスト））



平均寿命 テレビ所有 酸性雨 チェルノブイリの雲

インタラクティブ展示イメージ

（東京ガス：環境エネルギー館）
NPO、大学、企業による地球環境を学ぶ展示やWS開催



展示家具イメージ



5 テーマゾーンを計画する上での市民団体への意向調査

アイデアのひろばにおける市民参加・交流活動の機能整備に向け、NPOなどの市民団体に対して、活動に必要な要素についてのアンケート及びヒアリング調査を実施した。

1. アンケート及びヒアリング調査実施団体

対象とする市民団体は以下の条件で選出し、26の団体にアンケート及びヒアリングを実施した。

- 愛・地球博 長久手会場において、「地球市民村」に参加した団体のうち、「環境」、「ボランティア」、「森づくり」、「子ども」に関連する分野で活動している団体
- 愛・地球博 瀬戸会場において、市民プロジェクトに参加した団体のうち、県内及びにその周辺に拠点のある団体

これまでの愛知県の公園・緑化関係のイベントに参加実績のある団体

【調査団体名】

- おかざき匠の会、ドングリの会、NPO 法人子どもの虐待防止ネットワーク・あいち、エコプラットフォーム東海、中部リサイクル運動市民の会、ソムニード、愛・地球博ボランティアセンター設立準備会、NPO法人どんぐりモンゴリ、インタープリターズ・ユニット森あそび本舗、エコアクションニュース、ネイチャークラブ東海、こどもNPO、愛知県オリエンタリング協会、環境市民（受託団体は環境市民・東海）、福祉工房あいち、漂流日記研究所、NPO法人「とき」を祝う祭り、EJZ-プロジェクトと環境活動を推進する会、NPO法人まちの縁側育くみ隊、三河湾浄化市民塾、ライスブランケット、響け！心の音 届け！魂の鼓動、ケナフの会・ケナフネットワーク、薫の家倶楽部（草の文化・薫の家プロジェクト）、NPOわくわく体験隊、NPOオカリーナWAVE

2. 調査結果概要

- 調査を依頼した41団体の内、26団体から回答が得られた。
- 調査を行ったほとんどの団体から、アイデアのひろばでの活動に対し積極的な参加の意向が得られた。

- 調査概要は以下のとおりである。

ソフト面について必要な要素

運営

- ・ マスコミも活用した活動内容等の広報と参加者の確保
- ・ NPOからのアイデア提案により、行政と一緒に広報・運営するスタイル
- ・ 中部地区の中心的な活動場所としての位置付け
- ・ 公園収益が活かされる仕組みづくり
- ・ 参加するNPO団体が相互に協力できる共有の仕組み（人材バンクなど）
- ・ リピタを増やす活動
- ・ 博覧会でつくられた基盤を生かし発展させた運営体制
- ・ 企業、周辺大学等の他、小中学校、保育園・幼稚園、周辺市町村との連携プログラム
- ・ 多様なプログラムの用意とイベントの開催
- ・ いつ来ても楽しめる展示やプログラム整備
- ・ スタッフがいなくても来場者が自由に楽しめるシステム
- ・ 過去のイベント事例紹介システム
- ・ 園外施設とも連携した見学ツアー
- ・ 世界ボランティア大会の誘致

人材

- ・ ガイドやボランティアなどスタッフの養成・運営
- ・ 中学生や高校生がスタッフに参加できるシステム

ハード面について必要な要素

場所の条件

- ・ 大勢が集まれる屋根付きの空間・施設
- ・ 雨が降っても使用可能な大きな空間
- ・ 風や砂が入らない場所
- ・ 苗木づくりのフィールド
- ・ 7～10×7～10m程度のスペース
- ・ 20～30人くらいで活動できるスペース
- ・ ユニバーサルな施設（スロプ、トイレ、通路幅員等）
- ・ モリコロパークならではの活動スペース
- ・ 通り客を呼び込めるオープンな空間
- ・ クラフトワークができる場所
- ・ フレキシブルな活動空間

設備

- ・ インフォメーション機能
- ・ 看板と人による一体的な案内
- ・ 放送施設
- ・ 椅子や机
- ・ 参加者の休憩施設駐車場
- ・ 荷重に耐えられる床（2t/m²程度）
- ・ 看板が取り付けられる設備
- ・ 舞台（ステージ）、楽屋、照明施設
- ・ 自然エネルギー・発電施設、雨水利用施設等
- ・ コージェネレーションシステム、バイオマスエネルギー等の導入
- ・ 環境配慮に関する仕掛けや設備

その他

- ・ 博覧会の記憶を蘇らせる仕掛け
- ・ 情報・展示、園内の案内機能
- ・ ロッカールーム（30個以上）、更衣室
- ・ 倉庫
- ・ 自然素材の材料を使用
- ・ 壁面緑化
- ・ 文具、工具
- ・ 記念品等の販売スペース
- ・ 活動する場所があれば、イベント・企画展示等を自力で実施可能
- ・ 間伐材、竹を使用した施設

6 記念ゾーンの計画案

記念ゾーンの施設計画

- ・「記念ゾーン」には、人々の記憶に刻まれた博覧会の記憶を呼び起こし、語り伝え、未来につなげていくよう「博覧会記念樹の森」と「愛・地球博記念館」を整備する。
- ・「テーマゾーン」の「フレンドシップ広場」と連携し、博覧会の理念と成果を継承した空間として整備する。
- ・エリア配置及び誘導動線は、「博覧会記念樹の森」や「フレンドシップ広場」を通り、博覧会の記憶を思い起こさせながら、「愛・地球博記念館」へと向かう。
- ・各施設の基本概要等は図のとおり。

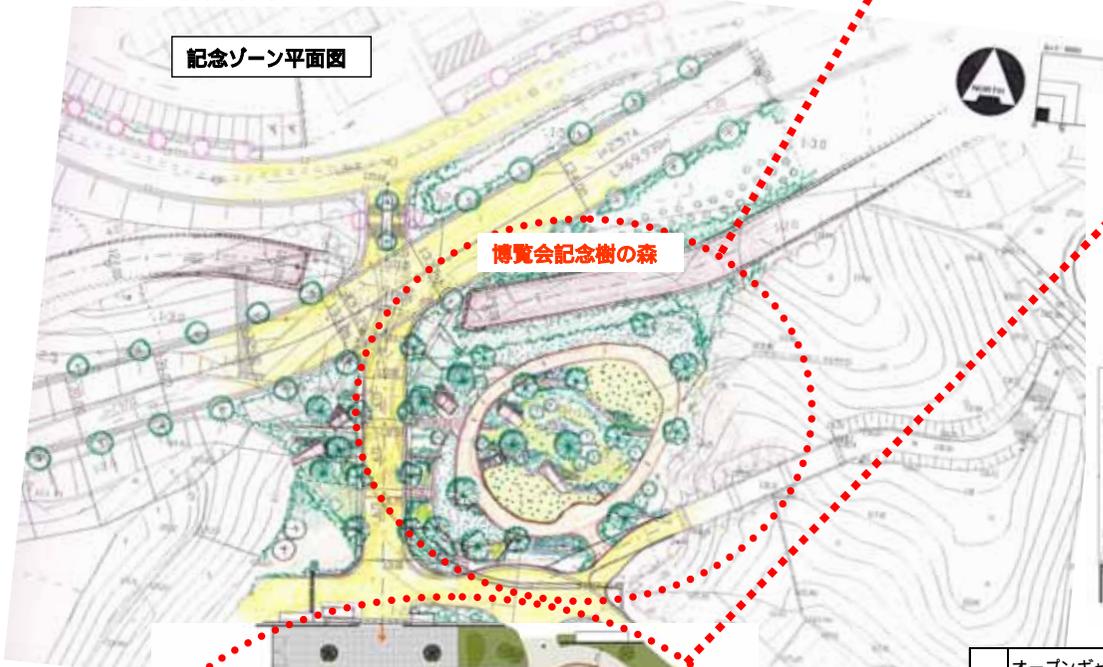
「博覧会記念樹の森」の概要

1. 規模 面積約1.4ha
2. テーマ 博覧会参加国から頂いた植樹セレモニーの記念樹を植栽し、博覧会を記念する場所として緑豊かな広場とする

「愛・地球博記念館」の概要

1. 構造 鉄骨造平屋建て
(迎賓館とレセプションホール)
2. 規模 延べ面積2,022.41㎡
3. 施設テーマ 「語り継いでいく愛・地球博のメッセージ」
展示コンセプト 感動の185日をもう一度
交流の喜びと楽しさを実感する
博覧会の記憶に新たな1ページを
4. 館内図(予定) 下のとおり

記念ゾーン平面図



博覧会記念樹の森



愛・地球博記念館



愛・地球博記念館
展示イメージ図

オープンギャラリー (記念館北側アプローチ部分)	入口側はそのままのたたずまいを残し、出口側には、グローバルループのかたちをした園路を設けます。
ギャラリー1 (連結空間部分(新設))	愛・地球博の開幕から閉幕までの185日間を振り返ります。また、唐子指南車など愛知県関連の展示や、博覧会協会寄贈のレリーフがあります。
ギャラリー2 (旧迎賓館部分)	迎賓館の持つ豊かな雰囲気を活かしたギャラリーです。各国からの寄贈品等を、共通のテーマごとに展示します。
貴賓室 (旧迎賓館応接)	皇族や世界の賓客に使用された貴賓室を保存・公開します。
アーカイブ (旧迎賓館応接)	愛・地球博に関する情報や、寄贈品のデータなどを検索できます。
ギャラリー3 (旧レセプションホール)	ギャラリーを囲うようにグローバルコモン単位に寄贈品を展示し、室内を一周することでグローバルループを一周できます。また、博覧会会場の模型や博覧会で目にしたものを展示し、博覧会の臨場感を出します。
シアター (旧レセプションホール厨房)	愛・地球博に関連した映像を見ることができる大画面の映像シアターです。